



YNU FDニュースレター

2014年1月 特別号

■平成24年度 授業アンケート実施報告

本「特別号」では、平成24年度春学期および秋学期に行った「学生による授業アンケート」（以下、授業アンケート。）の集計結果についてご報告いたします。

FD推進部会が実施母体となり、平成17年度後期より全学部・教養教育科目統一で実施されてきた学生によるアンケートは、これまで「授業評価アンケート」と呼ばれてきました。平成23年度、FD推進部会は年間活動方針の一つとして「授業評価アンケートの抜本的改革」を掲げ、部会内の授業改善ワーキング・グループにおいて議論を重ねて参りましたが、その結果、本学において「授業評価アンケート」が導入された目的は、学生に授業を「評価」してもらうことではなかったこと、そして、アンケートは個々の教員の授業改善に資するために行われていることが確認され、その名称を「授業評価アンケート」から「授業アンケート」に変更することが決定されました。したがって、平成24年度からその名称は「学生による授業アンケート」と相成りました。

名称の変更の他、平成24年度にはこれまでのアンケートから大きく変わった点がありました。それは、設問の記載順の変更です。従前までは、4段階評価による受講態度⇒授業について⇒個別質問ときて、最後に自由記述欄が設定されていましたが、当年度からは自由記述欄を冒頭にもっていただきました。これは、これまで「自己点検票」に書

かれていた教員からの意見（「平均点等の数値よりも自由記述の方が改善の参考になる」）や、FD推進部会の下部組織である教育改善学生グループ（通称「学生FDグループ」）からの提案を踏まえての改善です。

なお、授業アンケートの結果を受けて自らの授業の振り返りを行うことを目的とした「自己点検票」については、大学教育総合センターホームページ上で「自己点検票集録」という形で公開しています（アクセスの方法については、下記をご参照ください）。他の教員がどのようにアンケート結果を捉え、それを改善に活かそうとしているのか、教員相互で学び合える機会になると思っています。ぜひ、ご活用ください。

★自己点検票集録アクセス方法

<<http://www.yec.ynu.ac.jp>>にアクセスし、トップページの「お知らせ」にある「平成24年度自己点検票集録」を選択し、ユーザー名、パスワードをご入力ください。ユーザー名、パスワードは全教員共通です。アンケート対象科目の先生方へは別途文書を送付しておりますが、紛失された方、または文書を手に入っていない方は、教務課大学教育係（045-339-3107、kyomu.kyoiku@ynu.ac.jp）までご連絡ください。なお、公開範囲は学内関係者に限定しています。

FD推進部会 授業改善ワーキング・グループ

平成24年度授業アンケート実施状況

平成24年度の「学生による授業アンケート」は、春学期が平成24年7月9日～8月3日に、秋学期が平成25年1月10日～2月13日に実施された。

実施対象科目総数は、春学期が1319科目、秋学

期が1354科目であった。実施対象科目のうち、実際にアンケートが実施された科目数および実施率を科目区別に表1に示す。

表1 科目区別 アンケート実施状況

科目区分	春学期			秋学期		
	対象科目	実施科目	実施率	対象科目	実施科目	実施率
全科目	1319	1035	78.5%	1354	1048	77.4%
教養教育科目	524	443	84.5%	512	438	85.5%
基礎科目（人文社会系）	29	26	89.7%	19	17	89.5%
基礎科目（自然科学系）	36	31	86.1%	28	24	85.7%
現代科目	29	24	82.8%	32	26	81.3%
総合科目	13	13	100.0%	12	9	75.0%
情報リテラシー科目	21	20	95.2%	20	20	100.0%
基礎演習科目	55	39	70.9%	79	57	72.2%
健康スポーツ科目	32	25	78.1%	32	26	81.3%
語学系科目	309	259	84.1%	290	259	89.3%
国際交流科目	17	8	47.1%	19	14	73.7%
国際交流科目（日本語）	23	22	95.7%	28	23	82.1%
教育人間科学部専門科目	286	164	57.3%	317	184	58.0%
経済学部専門科目	22	15	68.2%	31	25	80.6%
経営学部専門科目	41	38	92.7%	33	30	90.9%
経営学部夜間主科目	29	28	96.6%	31	28	90.3%
工学部専門科目	310	265	85.5%	304	253	83.2%
工学部第二部科目	5	0	0.0%	18	1	5.6%
理工学部専門科目	62	51	82.3%	61	52	85.2%

科目区分別集計結果

受講者人数によってアンケート結果に大きな違いが見られることから、以下の科目区分別集計では受講者人数を4つのカテゴリー（1～20名、21

～50名、51～100名、101名以上）に分けて行った。各科目区分における受講者人数別の回答者数は表2の通りである。

表2 科目区分別×受講者人数別 回答者数

	春学期				秋学期			
	1-20名	21-50名	51-100名	101名以上	1-20名	21-50名	51-100名	101名以上
全科目	2248	11291	12915	14515	2570	11111	10901	10545
教養教育科目	1047	7003	3568	5752	1243	6235	2417	3905
教育人間科学部専門科目	663	1074	1516	1509	724	1248	1851	833
経済学部専門科目	24	0	91	702	63	43	154	861
経営学部専門科目	10	105	297	3216	19	162	270	1231
経営学部夜間主科目	74	334	143	55	75	362	97	—
工学部専門科目	183	2047	6044	3281	172	2315	4782	3541
工学部第二部科目	0	—	—	—	1	—	—	—
理工学部専門科目	66	710	1256	0	30	723	1330	174

設問Q3 授業外学修時間

図1は受講者人数別に授業外学修時間の評定平均値を算出した結果である（4：3時間以上、3：2時間程度、2：1時間程度、1：0～30分程度／1コマ（90分）あたり）。学部によって平均値に顕著な差があることが分かる。特に経済学部の少人数クラス（1～20名）の平均値が春・秋学期共に高い傾向にあるが、これは、積極的・主体的

に参加しなくては授業についていけなくなるような内容の科目であること（英語による授業、課題プロジェクト型の演習）や、もともとそういった科目を履修する学生自体が積極的・主体的（でありたい）という志向を強くもっている、ということが授業外学修時間を押し上げている要因として考えられる。

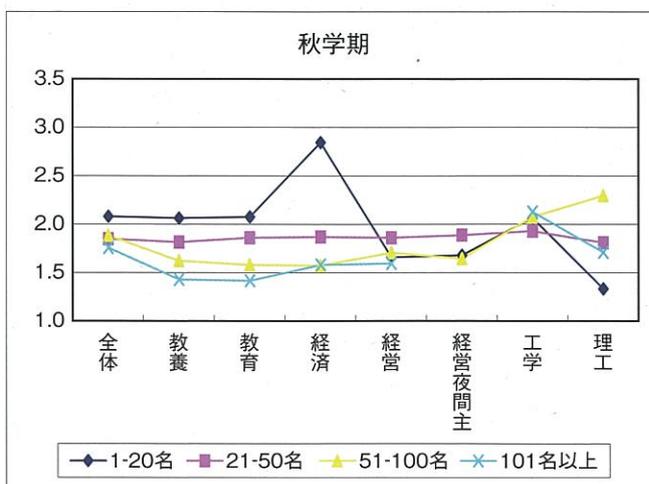
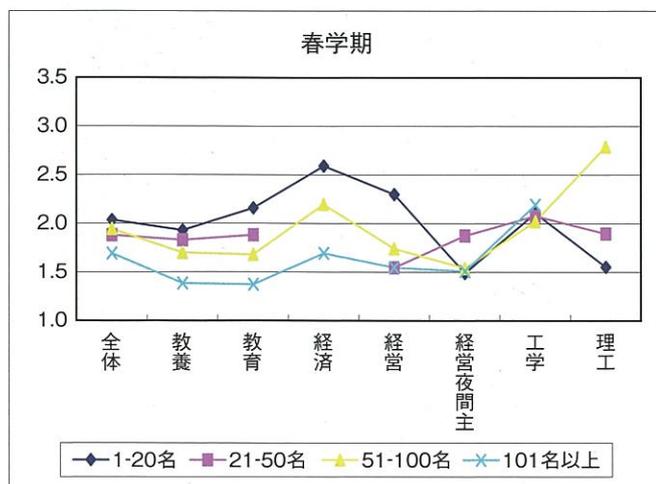


図1 受講者人数別 授業外学修時間 評定平均値

図2は、教養教育科目のうち特に授業外での学習が要求される外国語科目についてその評定平均

値を示したものである。

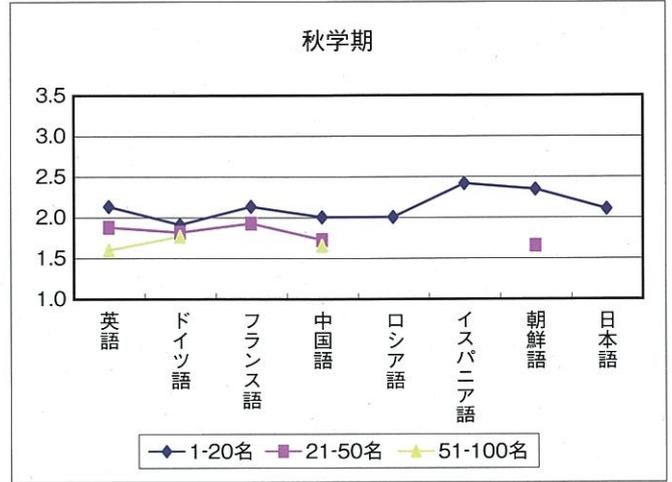
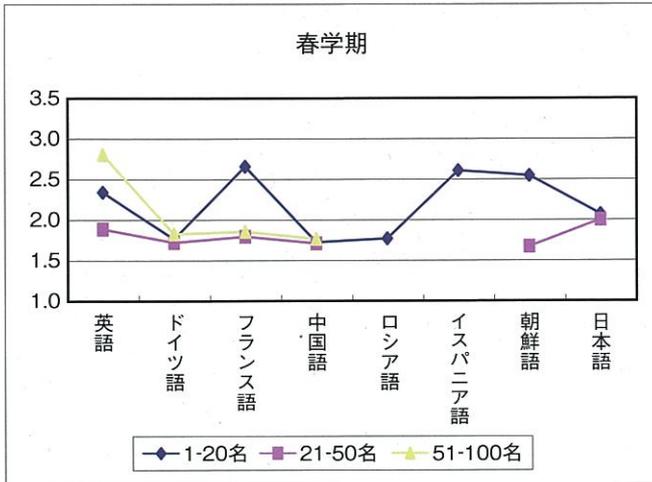
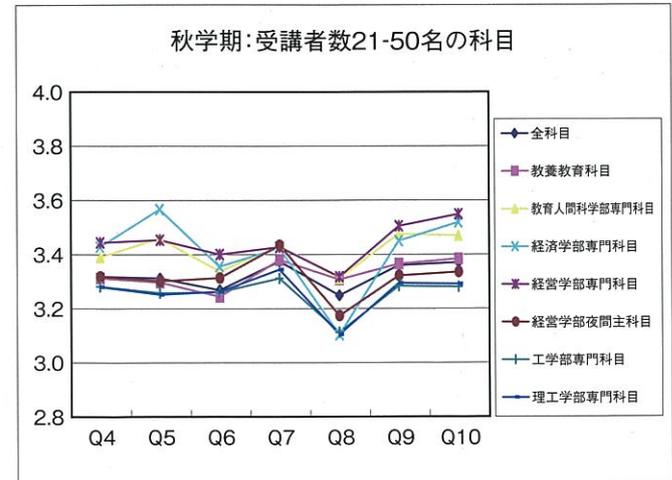
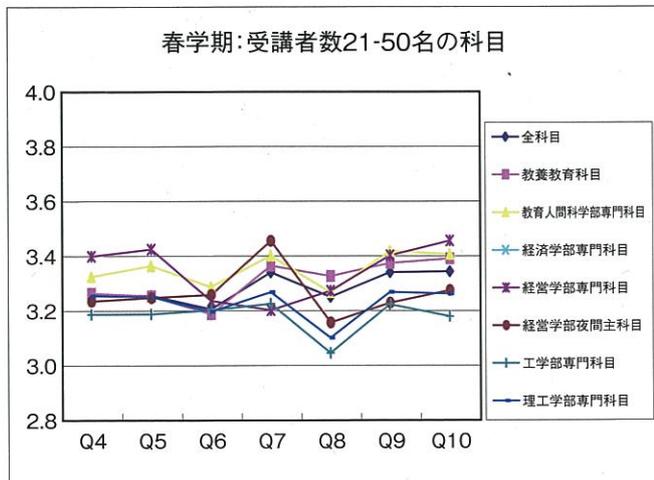
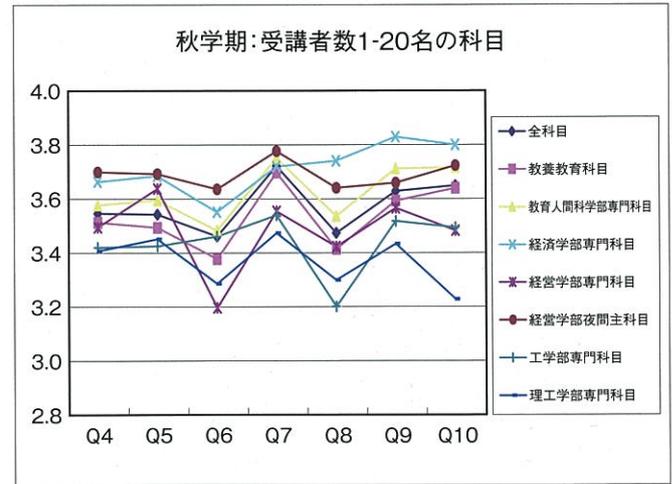
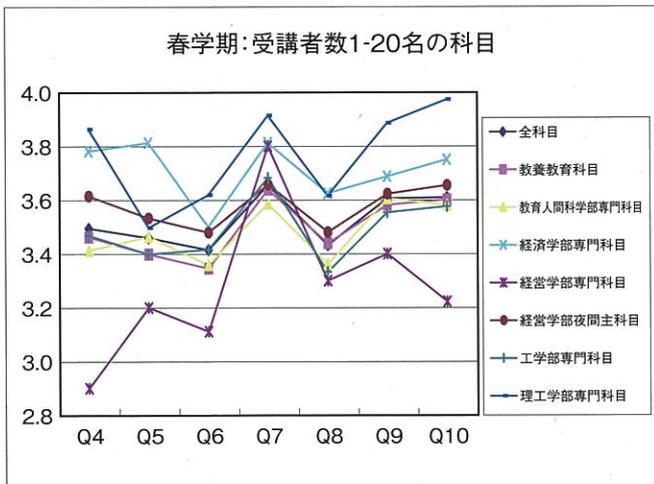


図2 受講者人数別 授業外学修時間 評定平均値：教養教育科目（外国語）

設問Q4～Q10

アンケートの設問Q4～Q8は教員の「授業の進め方および内容」について様々な角度から尋ねた項目であり、Q9、Q10は授業について「総合

評価」をする項目である。以下8枚の図（図3）はQ4～Q10の評定平均値を受講者人数別に示したものである（各設問番号の設問内容については7頁のアンケート票を参照）。



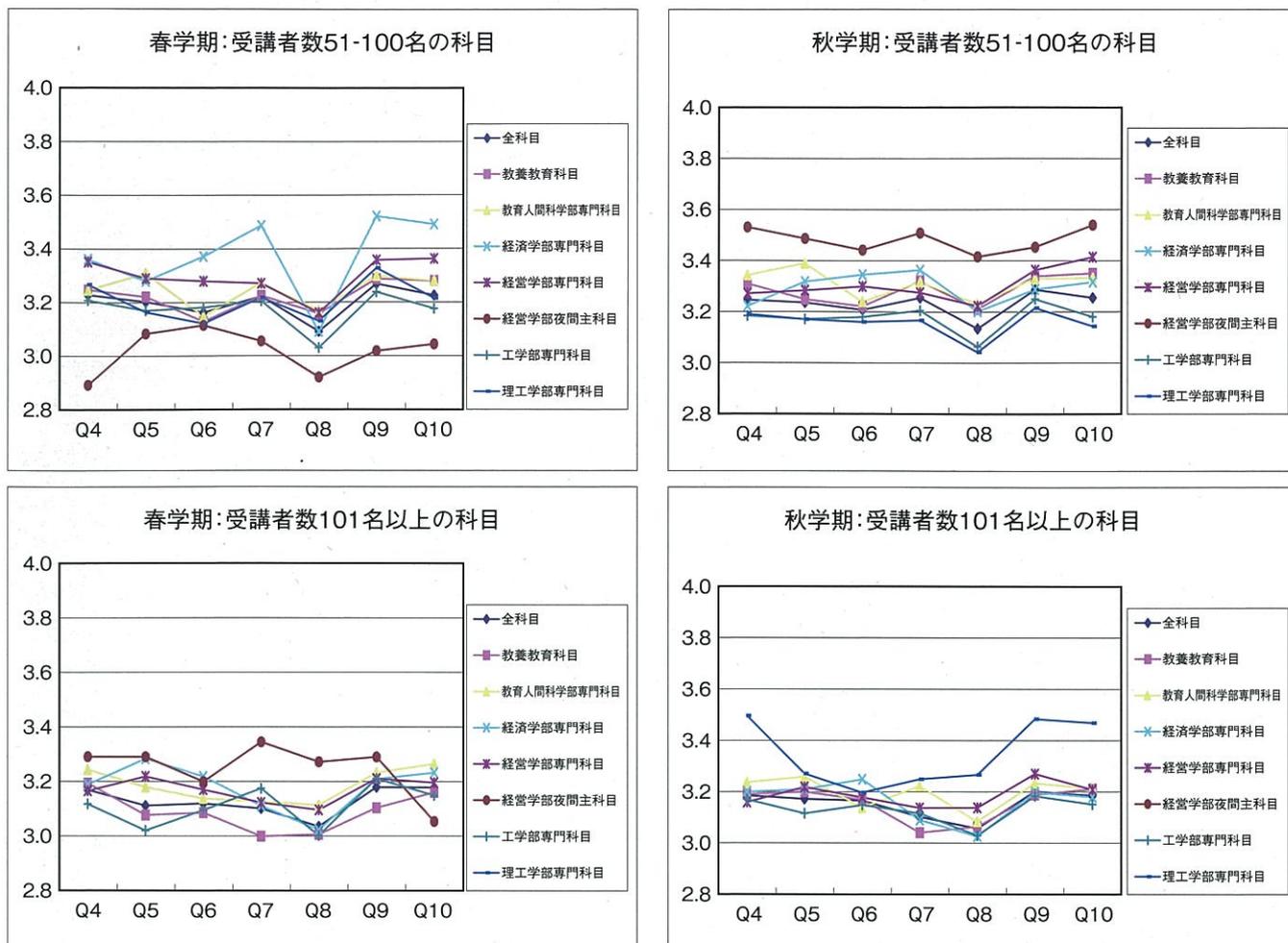


図3 受講者人数別 Q4～Q10評定平均値

例年見られる傾向として（また、一般的に言われることとして）、受講者人数が少ないほど評定平均値が高くなっていることが分かる。また、前年度の「特別号」でも指摘したように、受講者人数や科目区分に関わらず、全体的に授業内容の理解度が十分でなくとも（Q8）、授業を通しての

知識・技術等の向上（Q9）や満足度（Q10）は高く評価する傾向が見られる。特に「授業内容の理解度」と「知識・技術等の向上」について学生自身がどう捉えているのか、関心のあるところである。

アンケート改訂の意義～自己点検票の記述内容から～

授業アンケートの実施後、アンケートの結果を踏まえて自身の授業を振り返り、よりよい改善に結びつけていただくことを目的に自己点検票の作成を実施しているが、今回のアンケートでは設問の記載順を入れ替えるという改訂を行ったため、自己点検票の「FD推進部への要望」の欄においてその感想を尋ねた。

「設問記載順の変更にあまり意味はない」といった意見もいくつか見られたが、寄せられた感想の大半には「自由記述欄を冒頭にもってくるのはよ

い」、「自由記述の回答が増加した」と書かれていた。その声をいくつか紹介する。

- ▷最初に意見を書いて受講生が自分の感想を整理してから設問に回答する現在の方法は良いのではないかと思います。
- ▷とても良かった。数字ではわからない学生の生の声がきけた。
- ▷冒頭に自由記述をもってこられたのは、改善意欲向上につながった。

▷自由記載の回答者が驚くほど増えたと感じた。冒頭に持ってきたことの効果と考えられる。自由記載は、学生の声を知る最も良い部分なので数多くの回答を得たことは非常に有用である。

今後も、この設問記載順でアンケートを行って参りたい。

ただし、自由記述について、次のような意見も寄せられていた。

他の先生方の意見を聞いていて思ったのですが、自由記述部分については、学生側に「発言のマナー」についてあらかじめ注意喚起したらよいと思います（例：教員や他の受講生への人権を尊重すること、特定の人物に対する誹謗中傷をしないこと、人格や人間性への攻撃的言動を慎むことなど）。

こうした一部の学生による心無い記述については、これまで経験してきた教員も決して少なくないと考える。「10の褒め言葉が書かれていても、1の否定的な意見で意気消沈する。」という意見

に首肯される教員も多いであろう。授業アンケートは、教員一人一人がよりよい授業づくりを行っていくためのものであるから、そうした授業改善とは関係のない記述は厳に控えるよう、上記の意見にあるように学生に「発言のマナー」について伝えることも必要かも知れない。

自己点検票は学内限定で公開しているが、それは「他の教員の授業についての考え方や進め方を学びながら、互いに協力して、よりよい授業を学生たちに提供するための手掛かりとする」ためである。また自己点検票には、上記の自由記述に対する意見に見られるように、よりよい授業アンケートにしていくための要望・意見を書く欄も設けられている。よって、自身の授業の振り返りだけでなく、他の教員と授業改善や授業アンケートに対する意見を共有していくという意味でも、今後もより多くの教員の皆様に自己点検票をご作成いただき、ご活用いただけるようお願いしたい。

なお、平成24年度の自己点検票の提出率（自己点検票提出科目数／アンケート実施科目数）は以下の通りであった。

	全体	教養	教育	経済	経営	経営夜間主	工学	理工
春学期	44.0%	44.2%	37.8%	66.7%	52.6%	57.1%	43.2%	41.2%
秋学期	45.6%	36.3%	56.0%	56.0%	60.0%	42.9%	49.8%	48.1%

(資料) 授業アンケート設問項目
平成24年度 学生による授業アンケート

大学教育総合センターFD推進部では、教育の現状を把握し、今後の授業の質向上に役立てるために、学生による授業アンケートを実施します。

科目名

【自由記述】

FA1 この授業の「良かった点」は何ですか。

FA2 この授業の「改善すべき点」は何ですか。

下記の設問について、鉛筆でマークして答えてください。Q1は5項目の中から、Q2～Q14は4段階評価で最も適切な番号1つを選んでください。

【受講態度について】

Q1 この授業を選んだ動機は何ですか。以下の中からいくつでも選んでください。

1. シラバス（講義概要）を読んで面白そうだったから 2. 他の人に薦められたから
3. 自分の将来（キャリア）に役立つから 4. 必修だから 5. たまたま時間が空いていたから

Q2 この授業にはどの程度出席しましたか。 ほぼすべて出席した 4 3 2 1 ほとんど出席しなかった

Q3 この授業のために平均何時間くらい「時間外学修」をしましたか。一番近い数字を選んでください。

(注)「時間外学修」とは授業時間外の予習・復習・課題への従事等のことです。(本来、単位数はこれらを含めて決められています)

(4. 3時間以上 3. 2時間程度 2. 1時間程度 1. 0～30分程度／1コマ(90分)あたり)

以下Q4からQ14には、下の4段階評価に従って最も適切だと思う番号を下の選択肢欄から1つ選んでください。

(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. まったくそう思わない)

【授業の進め方および内容について】

Q4 板書や資料提示・デモンストレーション等は良かったですか。 4 3 2 1

Q5 授業の理解に役立つ教科書・参考資料・資料などが用意されましたか。 4 3 2 1

Q6 シラバスの記述は、分かりやすかったですか。 4 3 2 1

Q7 教員は質問やコメントなど、学生の声を聞く機会を設けましたか。 4 3 2 1

Q8 授業内容についてどの程度理解できましたか。 4 3 2 1

【総合評価】

Q9 この授業で考え方・知識・技術などが向上したと思いますか。 4 3 2 1

Q10 総合的にこの授業に満足しましたか。 4 3 2 1

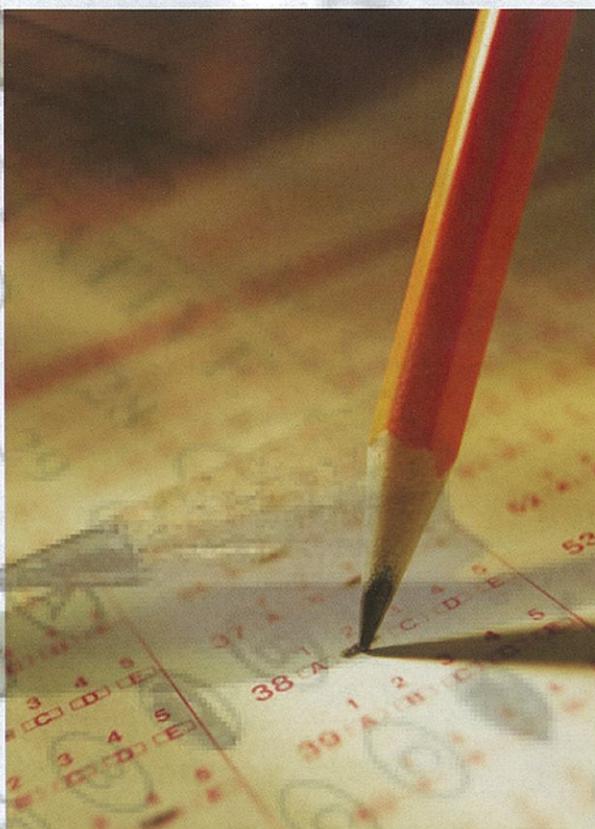
【個別質問】以下の3問は個別質問です。教員から指示があるときは回答してください。

Q11 4 3 2 1

Q12 4 3 2 1

Q13 4 3 2 1

Q14 4 3 2 1



YNU FDニュースレター 特別号

編集／横浜国立大学 大学教育総合センターFD推進部

作成担当：授業改善ワーキング・グループ

事務担当：教務課大学教育係

問合せ先：kyomu.kyouiku@ynu.ac.jp

発行／平成26年1月

※ご意見・ご感想がありましたら、上記宛までお寄せ下さい。